令和6年度版　小学校「国語」

光村の「国語」構造と系統

―― 小・中９年間を見通して

【この表は、次のことに留意して作成しました】

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」ならびに「情報の扱い方に関する事項」について、小・中９年間の構造と系統を示しました。小学校は「たいせつ」、中学校は「中学校学習指導要領（平成29年告示）」の記述を中心に、小学校６年間の学習内容がどのように積み重ねられ、中学校の学習につながるのかを、単元ごとの主な学習内容として示しています。
- 学習内容を見出しとして立て、その後の【　】内に教材名を示しました。
- 〔知識及び技能〕のうち、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」ならびに「(3) 我が国の言語文化に関する事項」は省略しました。
- 特に学習の中で押さえておきたい言葉を、「学習用語」として取り立てました。当該学年で学習する用語をまとめたページとして、２年生以上の巻末に「学習に用いる言葉」を示しています。併せてご参照ください。

光村図書

学びや生活の基盤を育む「架け橋期」（五歳～小学校一年生）

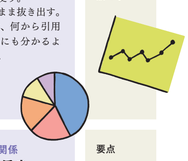
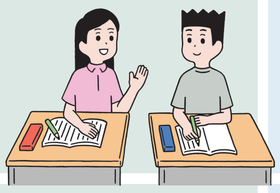
幼稚園 保育所

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【10の姿】
「幼稚園教育要領（平成29年告示）」ほかより

① 健康な心と体　② 自立心　③ 協同性　④ 道徳性・規範意識の芽生え　⑤ 社会生活との関わり　⑥ 思考力の芽生え　⑦ 自然との関わり・生命尊重　⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　⑨ 言葉による伝え合い　⑩ 豊かな感性と表現

幼稚園・保育所からの接続　スタートブック **「さあ　はじめよう」**（おはなし　ききたいな／なんて　いおうかな／かく　こと　たのしいな／どうぞ　よろしく／こんな　もの　みつけたよ／うたに　あわせて　あいうえお）

小学校

	話すこと・聞くこと：話す／聞く（受けて返す）	話すこと・聞くこと：話し合う	書くこと：報告・記録・説明・意見など（説明的な文章）	書くこと：日記・手紙、創作など（実用的な文章・文学的な文章）	読むこと：説明的な文章	読むこと：文学的な文章	情報の扱い方	学習用語
1	1学期から、年間を通じて多くの対話場面を体験し、楽しむ学習を積み重ねる。 **知らせたいことを話す** ●伝えたいことを決め、二、三文程度で話す。 ●聞き手の方を向いて、聞きやすい大きさの声と速さで話す。 ●話している友達を見て、終わりまで聞く。 ●聞き手は、質問をしたり、感想を言ったりする。 【みんなに　しらせよう】 **よく聞いて、話を続ける** ●絵の中の動物になりきって、話す。 ●友達が言ったことをよく聞いて、話を続ける。 【どんな　おはなしが　できるかな】 **考えながら聞く** ●詳しく知りたいことを考えながら聞く。 ●もっと知りたいことを質問する。 【くわしく　きこう】	**二人で話し合う** ●二人で考えを出し合って、問題にする物と、ヒントを出す順番を決める。 ●友達の言ったことを確かめたり、分からないことをきいたりして、相談する。 【これは、なんでしょう】 	1学期には、表記要素の学習のために単語を書く、一文を書く、二文を書くなど、折に触れて文を書く学習を繰り返す。 **見つけたことを書く** ●知らせたいものをよく見て、見つけたことを書く。 【しらせたいな、見せたいな】 **順序に気をつけて書く** ●説明の順に気をつけて書くと、分かりやすくなる。 【じどう車ずかんを　つくろう】 **分かりやすく書く** ●まとまりに分けて書く。 ・最初に、あったことを短く書く。 ・次に、詳しく思い出したことを書く。 ・最後に、思ったことを書く。 【いい　こと　いっぱい、一年生】	**書いたものを読み合う** ●絵を見て友達と話したことを基に、お話を書く。 ●友達が書いたお話を読んで、「いいな。」「おもしろいな。」と思ったことを伝える。 【どんな　おはなしが　できるかな】 **手紙を書く** ●したことや思ったことなど、知らせたいことを書く。 ●字や言葉の間違いがないか、読み返す。 【てがみで　しらせよう】 	**「問い」と「答え」を捉えて読む**　【つぼみ】 ●「問い」の文と「答え」の文に気をつけて読む。 **読んで確かめる**　【うみの　かくれんぼ】 ●大事な言葉を見つけながら読み、何が書いてあるかを捉える。 **順序に気をつけて読む**　【じどう車くらべ】 ●説明の順に気をつけて、まとまりごとに、「しごと」と「つくり」を読み分ける。 **比べて読む**　【どうぶつの　赤ちゃん】 ●比べて読み、特徴の違いなどを考え、分かったことを伝え合う。 **読書**　**昔話を選んで読む**　【むかしばなしを　よもう／おかゆの　おなべ】 ●昔話を読んで、好きなところを見つける。 ●読書カードを書いて、友達と交流する。	1学期から、音読する、言葉に即して内容を捉えるなどの学習を積み重ねる。 **お話を読む**　【やくそく】 ●誰が、何を言ったか、何をしたかを確かめながら読む。 ●登場人物になったつもりで、声に出して読む。 **思い浮かべながら読む**　【くじらぐも】 ●登場人物が、どこで、何をしたのか、何を言ったのかを、絵も見ながら思い浮かべる。 **好きなところを見つける**　【たぬきの　糸車】 ●登場人物がしたことと同じように、動いてみる。 ●好きなところとその訳を考える。 **読んで感じたことを話す**　【ずうっと、ずっと、大すきだよ】 ●登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ●感じたこととその訳を友達と話して、お話をもっと楽しむ。		題名 作者 訳者
2	**大事なことを落とさずに聞く** ●聞いておくとよいことは何かを考えながら聞く。 ●聞いたことの中から、大事だと思うことをメモする。 【ともだちは　どこかな】 **質問をして、相手の考えを引き出す** ●相手の考えを詳しく聞くために、大事なことは何かを考えて、質問する言葉を選ぶ。 【あったらいいな、こんなもの】 **相手に正しく伝わるように話す** ●何について話すかを、初めに言う。 ●話す順序を考える。 ●大事なことは、詳しく言う。 対話の練習【ことばでみちあんない】 **組み立てを考えて、話す** ●伝えたいことを、「初め」「中」「終わり」の組み立てで、順序よく話す。 ●聞き取りやすい声の大きさや、話す速さを考える。 【楽しかったよ、二年生】	**考えを出し合い、話をつなげる** ●話題を確かめ、自分の考えを言う。 ●友達の考えと自分の考えの、同じところや違うところを見つける。 ●友達の考えを聞いて思ったことを話したり、質問したりする。 【そうだんにのってください】 	**観察したことを書く** ●見たり、触ったり、においをかいだりして、丁寧に観察する。 ●様子や動きを、詳しく書く。 【かんさつ名人に　なろう】 **組み立てを考えて書く** ●人に何かを知らせる文章は、次のようなまとまりで、順序を考えるとよい。 ・初め――知らせたいこと ・中――知らせたいことの、詳しい説明 ・終わり――まとめの言葉 【こんな　もの、見つけたよ】 **順序が分かるように書く** ●まとまりがはっきり分かるように書く。 ●順序が分かる言葉を使って書く。 【おもちゃの作り方をせつめいしよう】	**日記に書くこと** ●したこと　●見たこと、見つけたもの ●言ったこと、聞いたこと　●思ったこと 【日記を　書こう】 **書いた文章を見直す** ●文章を書いたら、声に出して読むなどして、見直す。 ●丸、点、かぎの使い方や、文字の間違いがないかを確かめる。 書くときに使おう【書いたら、見直そう】 **組み立てを考えて、お話を書く** ●「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けて考える。 ●「中」には、誰が、何をしたかがよく分かるように、出来事の様子を詳しく書く。 【お話のさくしゃになろう】 **書いたもののよいところを見つける** ●次のようなことから、作品のよさを見つける。 ・内容や、使っている言葉のおもしろいところ ・様子や気持ちがよく伝わる言葉 【見たこと、かんじたこと】 **思いが伝わるように書く** ●内容のまとまりに気をつけて、伝えたいことをはっきり書く。 ●相手のどんなところについて、自分がどう思ったのかを、分かりやすく書く。 【すてきなところをつたえよう】	**説明する文章を読む**　【たんぽぽの　ちえ】 ●題名や絵から、その文章で書かれていることを確かめる。 ●順序が分かる言葉や、訳に気をつけて、詳しく読む。 **大事な情報を読み取る**　生活の中で読もう【みの回りのものを読もう】 ●身の回りには、情報の伝え方を工夫しているものがある。 ●言葉や絵などの使い方に気をつけて、大事なことを読み取る。 **読んで、自分の考えをもつ**　【どうぶつ園のじゅういん】 ●誰が何をしたのか、どんなことがあったのかを考えながら読む。 ●読んで分かったことを、自分のことや知っていることと比べて考える。 **大事な言葉や文を見つける**　【紙コップ花火の作り方】 ●「まず」「次に」など、順序が分かる言葉に気をつける。 ●写真が、どの言葉や文を表しているかを考える。 **読んで、分かったことや思ったことを伝え合う**　【ロボット】 ●大事な言葉を見つけながら読んで、初めて知ったことや、「すごいな。」と思ったことを伝える。 ●友達の話を聞いて、「いいな。」と思ったことを伝える。 **読書**　**お気に入りの本を紹介する**　【お気に入りの本をしょうかいしよう／ミリーのすてきなぼうし】 ●読書記録を振り返り、自分はどんな本が好きなのかを考える。 ●友達どうしで、お気に入りの本を紹介し合う。	**どんなお話かを確かめる**　【ふきのとう】 ●登場人物を確かめる。 ●次のような言葉を見つける。 ・したことや、言ったことが分かる言葉。 ・「いつ」や「どこ」が分かる言葉。 **お話の様子を思い浮かべる**　【スイミー】 ●お話には、いくつかの場面がある。 ●それぞれの場面で起こった出来事を確かめる。 ●たとえを表す言葉などに気をつけて、場面や人物の様子を思い浮かべる。 **登場人物と自分を比べて、感想をもつ**　【お手紙】 ●人物がしたことを表す言葉から、様子を思い浮かべる。 ●自分だったらどうするか、とう思うかを考えながら読む。 **人物の様子を思い浮かべる**　【みきのたからもの】 ●お話の中に出てくるものの様子を思い浮かべ、人物のしたことや出来事と結び付ける。 ●人物の様子から、どうしてそのことをしたり言ったりしたのか、その理由などを考える。 **読んで、感じたことを伝え合う**　【スーホの白い馬】 ●お話の、どの言葉や文から感想をもったのかをはっきりさせる。 ●友達の感想を聞いて、いろいろな感じ方や考え方を知る。 	▶情報と情報との関係 **順序を捉える** ●話したり、聞いたり、書いたり、読んだりするときには、その順序を考えるようにする。 ・時間の順序 ・何かをするときの順序 ・大切さの順序 【じゅんじょ】 ▶情報の収集・整理 **メモを取る** ●メモには、覚えておきたいことや、後から確かめたいこと、誰かに知らせたいことなどを書く。 ●メモを取るときには、次のことに気をつける。 ・短い言葉で書く。 ・大事だと思ったことを、選んで書く。 ・後からメモを見返しても分かるように書く。 【メモを　とる　とき】	登場人物（人物） メモ 場面 組み立て 質問 筆者 話題 あらすじ
3	**話を聞いて、知りたいことを質問する** ●話す人の方を見ながら、話の中心に気をつけて聞く。 ●自分が特に知りたいことをはっきりさせ、どのように質問するとよいかを考える。 【もっと知りたい、友だちのこと】 **理由を挙げて、伝えたいことを話す** ●伝えたいことをはっきりさせ、「初め」と「終わり」で繰り返す。 ●伝えたいことに合う理由を考え、分かりやすい資料を用意する。 ●伝えたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどの工夫を考える。 【お気に入りの場所、教えます】 	**話し合って、考えを広げる** ●全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ●出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 対話の練習【こんな係がクラスにほしい】 **進行を考えながら話し合う** ●初めに、話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ●出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進行する。 ●司会の進行に沿って、みんなでどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。 【おすすめの一さつを決めよう】	**読む人のことを考えて、書くことを選ぶ** ●メモに書いておいたことの中から、自分が特に伝えたいことを選ぶ。 ●読む人が知っていることと知らないこと、知りたいだろうことを考える。 【仕事のくふう、見つけたよ】 **図を使って、何を書くかを考える** ●思いついたことを、線でつなぎながら書く。 ●詳しく書き出したことの中から、いちばん伝えたいことを選ぶ。 書くときに使おう【書くことを考えるときは】 **分かりやすい組み立てを考える** ●「初め」で話題を示し、内容のまとまりごとに、段落を分ける。 ●伝えたいことに合った例を選び、読む人に分かりやすい順序を考える。 【食べ物のひみつを教えます】 **書いた文章の感想を伝え合う** ●伝えようとしていることが分かりやすく書かれているかなど、内容や書き方について思ったことを詳しく伝える。 ●感想を伝え合うことで、自分の文章の、内容や書き方のよい点を見つける。 【わたしの町のよいところ】	**読み返して、文章を整える** ●相手にとって必要なことや、自分が伝えたいことが書かれているかを確かめる。 ●間違いや分かりにくいところはないか、相手に合わせた言葉を使っているかを確かめる。 【気持ちをこめて、「来てください」】 **物語を書くときの組み立て** ●どんな出来事が起こるのかを想像し、次のような組み立てで物語を考える。 ①始まり ②出来事（事件）が起こる ③出来事（事件）が解決する ④結び 書くときに使おう【四まいの絵を使って】 **書き表し方を工夫して、物語を書く** ●様子が詳しく伝わるように、言葉を言い換えたり、加えたりする。 ●登場人物の気持ちや、その人物らしさがよく分かるように、会話や行動などの書き方を考える。 【たから島のぼうけん】	**文章全体の組み立てを捉える**　【文様／こまを楽しむ】 ●文章は、「初め」「中」「終わり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは、一つ、またはいくつかの段落でできている。 ●一つ一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりの内容が書かれている。 ●「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心を捉えることができる。 **作り手の工夫を考える**　生活の中で読もう【ポスターを読もう】 ●誰に向けて作られているか、何を、どのように伝えようとしているかを考える。 ●言葉と絵、写真などを、どう組み合わせているか、考える。 **話題と、例の書かれ方を考えながら読む**　【すがたをかえる大豆】 ●題名や「初め」から、話題を確かめる。 ●「中」の例と話題とのつながりから、それぞれの段落の中心となる言葉や文を考える。 ●例を挙げる順序や、写真の使い方など、筆者の例の書き方の工夫を見つける。 **説明する文章を読んで、考えをもつ**　【ありの行列】 ●読んで考えをもつためには、次のことを見つけながら読むとよい。 ・初めて知って、驚いたこと ・「どうしてだろう。」と、不思議に思ったこと ・もっと知りたいと思ったこと ●考えたことを伝え合うときには、自分の考えと同じところや違うところに着目する。 **読書**　**さまざまな種類の本を読む**　【本で知ったことをクイズにしよう／鳥になったきょうりゅうの話】 ●読む本の種類や目的に合わせて、次のような読み方を使い分けるとよい。 ・初めから終わりまで、丁寧に読む。　・本全体をおおまかに読む。　・目次や索引を使って、必要なところだけを読む。 ●知りたいことがあるときは、目次や索引を使うと、目的のページを早く見つけることができる。	**言葉に着目して、登場人物の気持ちを確かめる**　【春風をたどって】 ●気持ちをそのまま表す言葉から確かめる。 ●したことや言ったことを表す言葉から、登場人物の様子を考える。 ●場面の様子を表す言葉から、登場人物がどう感じているかを考える。 **登場人物がどのように変化したかを考える**　【まいごのかぎ】 ●どんな出来事が起こったか、登場人物がどのような様子や気持ちなのかを確かめる。 ●出来事が起こる前と後で、登場人物の考え方や気持ちがどう変わったかを考える。 ●登場人物の考え方や気持ちの変化は、言ったことや、その人物の様子を表す言葉から、想像することができる。 **場面を比べながら読み、感想をもつ**　【ちいちゃんのかげおくり】 ●場面を比べて読み、似ているところや違うところ、登場人物の気持ちの移り変わりを考える。 ●場面を比べることで気づいたことや、変わったり深まったりした考えについて、物語のどこからそう感じたのかを明らかにしながらまとめる。 **内容や書かれ方に着目して読む**　【三年とうげ】 ●次のようなことに着目すると、お話のおもしろさを見つけることができる。 ・登場人物の行動　・登場人物の様子と、その変化 ・起こった出来事と、それがどうなったか　・言葉の使われ方や、文の調子 **登場人物についての考えを伝え合う**　【モチモチの木】 ●次のことに着目し、場面や言葉を結び付けながら、登場人物の気持ちの変化や性格について考える。 ・その人物の行動や会話　・語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉 ●考えるときに着目した言葉や文を明らかにしながら、登場人物と自分を比べて感じたことを伝える。 ●他の人と感想を交流することで、新しい考えに出会うことができる。	▶情報と情報との関係 **全体と中心の関係を捉える** ●文章を読むときや話を聞くときには、中心は何かを考える。 ●話したり書いたりするときには、伝えたいことの中心をはっきりさせてから、組み立てを考えるようにする。 【全体と中心】 ▶情報の収集・整理 **引用する** ●調べたことを報告するときに、他の人の言葉、自分の文章や話の中で使う場合は、引用のしかたの決まりを守る。 ・本などの題名を示す。 ・かぎ（「　」）を付けるなどして、自分の言葉と区別する。 ・必要な部分だけを使う。 ・元の文章を、そのまま抜き出す。 ●引用するときには、何から引用したのかが読む人にも分かるように、出典を示す。 【引用するとき】 	問い（問いの文） 段落 引用 出典 索引 連 キャッチコピー 会話文・地の文 司会 語り手
4	**メモを取りながら聞く** ●メモを取る目的を確かめる。 ●必要なことは何かを考え、要点を短い言葉で書く。 ●後で確かめたいことには、印などをする。 ●話が終わったら、すぐにメモを読み返し、書き足すなどして整理する。 【聞き取りメモのくふう】 **大事なことがよく伝わるように話す** ●調べて分かったことを整理して、考えたことや伝えたいことをはっきりさせる。 ●聞く人に大事なことが伝わるように、声の大きさや話す速さ、間の取り方、資料の見せ方を工夫する。 【調べて話そう、生活調査隊】	**自分とは違う立場になって考える** ●相手の言葉や行動、考えには、どのような理由があるのかを考える。 ●相手が知っていることや、望んでいること、受け止め方を想像し、言い方を考える。 対話の練習【あなたなら、どう言う】 **役割を意識しながら話し合う** ●司会グループは、話し合いの目的と議題、進め方を示し、出された意見を整理しながら進行する。 ●提案者や参加者は、自分の考えとその理由を明らかにして、発言したり、質問したりする。 ●整理した意見の中から、目的と決め方に合わせて結論を出す。 【クラスみんなで決めるには】 	**知らせたいことの見せ方を工夫する** ●何を写真や図などで示すとよいかを考える。 ●知らせたいことや、記事の読みやすさを考えて、見出しや本文、写真や図などの割り付けを考える。 【新聞を作ろう】 **相手や目的に応じて、文章を見直す** ●内容のまとまりごとに段落を分ける。 ●「です・ます」と、「だ・である」をそろえる。 ●読む人が知らない言葉や漢字がないか、目的に合う文章になっているかを考える。 書くときに使おう【どう直したらいいかな】 **伝えたいことを分かりやすく書く** ●調べたことを整理し、伝えたいことをはっきりさせる。 ●考えが分かりやすく伝わるように、具体例や写真などを使って書く。 【工芸品のみりょくを伝えよう】 **理由や例を挙げて、自分の考えを書く** ●調べたことを整理し、その中から、自分の考えを伝えるのにふさわしい理由や例を選ぶ。 ●理由や例と、自分の考えとの関係が分かるような言葉を用いるなど、工夫して書く。 【もしものときにそなえよう】	**手紙で気持ちを伝える** ●手紙を書く目的を明らかにし、伝えたいことを詳しく思い出す。 ●相手に対する気持ちがよりよく伝わるように、書く内容を考える。 【お礼の気持ちを伝えよう】 **連想を広げて表現を工夫する** ●見たままの様子や聞こえる音など、思いついた言葉をたくさん書き出す。 ●言葉と言葉を組み合わせたり、言葉の順序を変えたりして、表現を整える。 書くときに使おう【言葉から連想を広げて】 **言葉や表現の工夫について、感想を伝え合う** ●書いた人が何に心を動かされたかを考えながら読み、感想を伝える。 ●言葉や表現の工夫について、互いの作品のよいところを見つける。 【心が動いたことを言葉に】 	**筆者の考えの述べ方を捉える**　【思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える】 ●考えを述べた文章では、文章の初めと終わりの両方で、考えを繰り返し述べていることが多い。 ●どのような具体例を挙げて考えを述べているかなど、段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えを捉える。 **目的を意識して読む**　生活の中で読もう【パンフレットを読もう】 ●自分が知りたいことをはっきりさせる。 ●見出しや絵などから、自分にとって必要な部分を見つけて、詳しく読む。 **中心となる語や文を見つけて、要約する**　【未来につなぐ工芸品】 ●まとまりごとに、中心となる語や文がどれかを考える。 ●中心となる語や文を使い、分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。 **感じ方の違いに気づき、よさを見つける**　【風船でうちゅうへ】 ●読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をとう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。 ●自分とは違う感想や考えに出会ったら、違いはどこから生まれているのか、他の人の感じ方のよさは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。 **読書**　**本の読み方について考える**　【本のポップや帯を作ろう／神様の階段】 ●先を予想したり、問いをもったりしながら読む。 ●分からない言葉が出てきたら、前後の文章から考えたり、国語辞典などで調べたりする。 ●読む速さを変える、少し戻って読むなど、自分のペースで読み進める。	**言葉に着目して、出来事と人物の気持ちを捉える**　【白いぼうし】 ●会話や行動と、その様子を表す言葉から、そのときの人物の気持ちを考える。 ●色や匂いなどを表す言葉から、その場面を思い浮かべる。 ●繰り返し出てくる物を表す言葉から、登場人物がそれをどう感じているかを考える。 **繰り返し出てくる物や言葉について考える**　【一つの花】 ●繰り返し出てくる物や言葉が、それぞれの場面で、どのように書かれているかを確かめる。 ●場面どうしを比べて、その物や言葉の書かれ方の、同じところや違うところを見つける。 ●書かれ方の違いから、登場人物の気持ちなどの変化を想像する。 ●その物や言葉が、題名とどう関係するかを考える。 **気持ちの変化を捉えて、感想をもつ**　【ごんぎつね】 ●行動や会話とともに、情景や場面の様子が分かる表現からも、登場人物の気持ちの変化を想像する。 ●登場人物の気持ちの変化について、自分がどう感じたかを考える。 ・自分がその人物の立場だったら、と考えて　・他の作品と比べて **つながりを見つけながら読む**　【友情のかべ新聞】 ●同じような事柄が何度か出てくるときは、描かれ方に着目し、どんなつながりがあるかを考える。 ●「なぜだろう。」と思うような登場人物の行動や様子について、他で書かれていることと結び付けて、その理由を想像する。 **読んで考えたことを伝え合う**　【スワンレイクのほとりで】 ●登場人物の変化を、人物の経験したことや、他の人物との交流の様子などとつなげて想像する。 ●考えたことを伝え合うときは、何に着目して読み、考えをもったのかをはっきりさせる。 ●自分と友達の考えを比べながら聞くことで、物語に対する新しい見方に出会ったり、自分の考えが深まったりする。	▶情報と情報との関係 **考えと例の関係を捉える** ●文章を読むときや、人の話を聞くときには、どんな例が挙げられているかや、伝えたいこととその例がどう結び付いているのかを捉える。 ●話すときや書くときには、自分が伝えたいことに合った例を挙げるようにする。 【考えと例】 ▶情報の収集・整理 **要約する** ●長い文章や本、物語などの内容を説明したり、紹介したりするときには、次のことに気をつけて、まとめる。 ・伝える相手と要約する目的、まとめる分量を確かめる。 ・その話を知らない人や、その文章を読んでいない人にも正しく伝わるようにする。 ・説明する文章や物語など、元の文章の種類に応じたまとめ方をする。 ・要約した部分と、自分の感想や意見とを区別する。 【要約するとき】	要点 箇条書き 対比 設定 要約 見出し 取材 割り付け 情景 議題
5	**意図を考えながらきき合う** 〈尋ねるとき〉 ●ききたいことをはっきりさせて、話の流れに沿って質問する。 ●話す人が伝えたいことを考えたり、内容を確かめたりする。 〈質問に答えるとき〉 ●相手が何を知りたいのか、意図を確かめながら話す。 〈話を記録してまとめるとき〉 ●やり取りを正確に聞いて、要点をメモに取る。 【きいて、きいて、きいてみよう】 **説得力のある提案をする** ●自分の立場や提案内容を明確にする。 ●課題や根拠となる事実と、自分の考えや意見とを区別して、話を組み立てる。 ●根拠となる図表などを資料にまとめて、提示する。 【「子ども未来科」で何をする】	**二つの立場から意見を述べ合う** ●質問し合って、考えの違いを明確にする。 ●互いの考えのよいところや問題点を比べ、どちらの考えに説得力があるかを考える。 対話の練習【どちらを選びますか】 **立場の違いを明確にして、計画的に話し合う** ●議題を確かめ、進行計画に沿って話し合う。 ●賛同を通して互いの考えを詳しく知り、共通点や異なる点をはっきりさせて、考えを広げる。 ●話し合いを整理しながら、決めた条件に沿って考えをまとめる。 【よりよい学校生活のために】 	**目的に沿って、集めた情報を整理する** ●読む人のことや、伝えたいことを考えて、集めた情報を整理する。 ●伝えたいことに沿って、必要な情報とそうでない情報とを区別したり、情報の内容ごとにまとまりを作ったりする。 【みんなが使いやすいデザイン】 **説得力のある構成を考える** ●意見文を書くときには、主張と根拠を明らかにする。 ●文章のどこに主張を示すか、予想される反論とそれに対する考えをどう示すかなどを工夫する。 書くときに使おう【文章に説得力をもたせるには】 **グラフや表を用いて、考えを書く** ●自分の考えに合った資料を選ぶ。 ●資料と文章との対応が伝わるように書く。 ●資料から分かることと、自分が考えたこととを、区別して書く。 【自然環境を守るために】 **文章のよいところを見つける** ●目的に合った構成で書かれているか、伝えたいことは明確かなどについて、感想を具体的に伝える。 ●感想を伝え合うことで、互いの文章のよいところを見つける。 【あなたは、どう考える】	**表現を工夫して、感動を伝える** ●さまざまな表現を試し、感動がより伝わると思うものを選ぶ。 ●たとえを使ったり、言葉の順序を工夫したり、漢字・平仮名・片仮名のどれを使って書き表すかを考えたりする。 【日常を十七音で】 **情景が伝わるように書く** ●人物の行動や会話、場面の様子（色や音、匂いなど）を想像して、言葉を書き出す。 ●たとえや、音の響きで様子を表す言葉を使うなど、表現を工夫する。 書くときに使おう【言葉でスケッチ】 **物語の効果的な構成を考える** ●読む人にどう感じてほしいかを意識し、出来事とその解決を中心に、物語全体のどこに何を書くかを考える。 ●構成がどんな効果を生むかを考える。 ●設定と出来事、解決、結末などが、うまくつながるようにする。 【もう一つの物語】	**構造と内容の把握** ア：文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。 イ：場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。 **精査・解釈** ウ：目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 エ：文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 **考えの形成、共有** オ：文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。	**表現に着目して、人物の心情や関わりを考える**　【銀色の裏地】 ●次のような表現から、人物の心情や関わりを考える。 ・行動の様子や表情を表す表現　・人物の心中の言葉　・対比的な表現 ●人物の関係は、図に表して整理すると理解しやすい。 ●人物の心情や、人物どうしの関わりが変化したきっかけと、どう変化したかを捉える。 **物語の全体像を想像する**　【たずねびと】 ●中心となる人物が出会う人やもの、経験したことが、物語においてどのような役割をもっているかを考える。 ●物語の展開とともに、何度も出てくるものや人物の心情が、どのように表現されているかに気をつけて読む。 **伝記を読み、自分の生き方を考える**　【やなせたかし――アンパンマンの勇気】 ●伝記に描かれた出来事や言動から、その人物の生き方や考え方を捉える。 ●自分の生き方に取り入れたいことや、自分はどう生きたいかを考えながら読む。 **多様な観点から読み、魅力を伝え合う**　【大造じいさんとガン】 ●物語の印象は、出来事や登場人物の行動、心情だけでなく、それがどのように表現されているかということからも生まれる。 ●さまざまな点に着目して読むことで、物語を豊かに想像し、物語の魅力を見つけることができる。 ●見つけた魅力を伝え合うことで、自分の考えを広げ、物語をより深く味わうことができる。 **読書**　**作家に着目して読み広げる**　【作家で広げるわたしたちの読書／モモ】 ●読みたい本を見つけるときは、次のようにするとよい。 ・作家やジャンルに着目する。　・あらすじを読む。　・図書館や友達が薦めるものから選ぶ。 ●好きな作家に着目することで、自分が好きなジャンルやテーマ、友達との共通点などに気づくことがある。 	▶情報と情報との関係 **原因と結果の関係を捉える** ●考えを述べるときには、事例の「結果」だけでなく、その「原因」を説明することによって、事例と筆者の考えとの結び付きが分かりやすくなる。 ●話したり書いたりするときには、必要に応じて、「原因と結果」の関係が分かるようにする。 【原因と結果】 ▶情報の収集・整理 **目的に応じて引用する** ●調べたことを記録するときには、自分の書く文章に引用する目的をはっきりさせて、書き留めるようにする。 ●書き留めるときには、次のことに気をつける。 ・目的に合った部分を選び、正確に書き写す。 ・出典となる本の情報を書いておく。 ・インターネットで調べたときは、ウェブサイト名や、そのサイトの管理者の名前などを書いておく。 【目的に応じて引用するとき】	心情 人物像 要旨 構成 事例 主張 根拠 山場
6	**話を聞いて、考えを深める** ●自分の知りたいことが相手に伝わるように、言葉を選んで質問する。 ●相手がなぜそう考えるのか、確かめたり考えたりしながら、話を聞く。 ●自分の考えと比べながら聞き、新たな気づきや、共感・納得できる点を取り入れるなどして、考えを深める。 【聞いて、考えを深めよう】 **資料を活用して、自分の思いや考えを効果的に伝える** ●伝えたいことや、聞く人の知識や関心に合わせて、資料を作る。 ●伝えたい思いや考えに応じて、資料の示し方や話し方、言葉の選び方を工夫する。 ●聞いている人の反応を確かめながら、必要に応じて説明を補うなどする。 【今、私は、ぼくは】 	**いろいろな考え方を聞いて、自分の考えにいかす** ●その人がなぜそのように考えるのか、理由や背景を理解しようとしながら聞く。 ●考えを伝え合うことで、自分の考えがどう広がったり、深まったりしたのかを確かめる。 対話の練習【いちばん大事なものは】 **目的や条件に応じて話し合う** ●議題について、自分の主張とその理由、根拠を明らかにして発言する。 ●問題点や改善点を明らかにし、目的と条件に照らして、考えをまとめる。 ●考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いを通して、結論に向かう。 【みんなで楽しく過ごすために】 	**説得力のある構成で、提案する文章を書く** ●自分の体験や、調べて分かったことから、課題や提案内容を導き出す。 ●提案内容と、その根拠となる事実とを結び付けて、分かりやすく伝わるように構成する。 【デジタル機器と私たち】 **読む人を意識して推敲する** 次のことに気をつけて、文章全体を見直す。 ●伝えたいことを、具体的に書いているか。 ●伝えたいことを理解してもらえる構成になっているか。 ●事実と、感想や意見とを区別しているか。 ●引用のしかたや、文と文のつながりは適切か。 書くときに使おう【文章を推敲しよう】 **目的や意図に応じて、効果的に伝える** ●伝えたいことが伝わりやすい構成や表現、写真などの使い方を考える。 ●目的や意図に応じて、簡単に書いたり、詳しく書いたりする。 【発見、日本文化のみりょく】 **書き表し方を工夫して、推薦する文章を書く** ●相手や目的、推薦する理由を明確にする。 ●読む人を引きつける言葉で表現し、伝えたいことに合った文章を引用したり、写真などを用いたりする。 【おすすめパンフレットを作ろう】	**感想を伝え合い、今後の表現にいかす** ●書いた人の伝えたいことを考え、題材や表現のよさなどを伝える。 ●感想を聞いて、次に文章などを書くときにいかしたいことを考える。 【たのしみは】 **伝えたいことを、比べて選ぶ** ●観点を立て、集めた材料がその観点に対して、どのような位置づけになるかを、図を使って比べる。 ●自分にとっての意味や、伝えたい理由をはっきりさせて、伝えるものの優先順位をつける。 書くときに使おう【知ってほしい、この名言】 **自分の思いを的確に伝える** ●自分の経験や思いが、読む人に分かるように、書き分けたり、詳しく書いたりする。 ●自分の思いを